茨城県私立幼稚園・認定こども園
教職員研究協議会 第二分科会

安全管理の研究
～園における安全管理のマネジメント～

Copyright (C) 2023 保育安全のかたち 遠藤登

遠藤 職歴

- **保育士/ 幼稚園教諭**
  - 保育施設長勤務（~2011）
  - 救命講習インストラクター
- **訪看/ 小児科クリニック**
  - 訪問医療補助、医療事務
- **キャリアアップ研修講師**
  - 保健衛生・安全対策、アレルギー

『**保育安全のかたち**』
https://child-care.ne.jp/
左記、LINE で登録者に向けた特典動画を公開中
主催オンライン勉強会のご参加お待ちしています

今回お伝えする内容

▼ **安全管理の研究 - 組織的取り組み**

① 組織的取り組みの必要性について
② 保育のリスクマネジメントの間違い
③ ヒヤリハットの受け止め方
④ 見たいものだけを見る選択的注意
⑤ 課題を抱えた幼児への教育のあり方

組織的取り組みの必要性

平成27年 4月に施行された子ども・子育て支援新制度においては、「特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準」（平成26年内閣府令第39号）第 32条第 1項第 1号及び第 50条の規定において、特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業者は、
事故が発生した場合の対応等が記載された事故発生防止のための指針を整備することとされています。

出典：教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン
【事故防止のための取組み】～施設 ・事業者向け～

安心・安全な保育について

▼保育の安全と安心の関係

1. 安全であり、安心感をもってもらっている
2. 安全なはずが、不安を感じさせている
3. 危険はあるが、安心感をもっている
4. 危険であり、不安しかない

- 「安全」とは客観的な基準をもって判断できる。
- 「安心」とは個人の主観的な判断に依存する。

保育のリスクマネジメントの間違い

- 子どもはケガから学ぶ？
- 子どもにとって学びとなるリスクがある？
- リスクとは、学習が可能な危険のこと？

✓ 失敗から学ぶ （失敗の中にケガもある）
✓ ケガは体の損傷であり後遺症の懸念を残す
✓ 子どもの人権に配慮すべき保育
✓ 最初からケガを前提として、痛み（後悔）から学ばせる考え方は体罰と同じ

ヒヤリハットの受け止め方

① 死亡など深刻事故の再発防止
② 保育者の過失による事故を減らす

- 保育教諭がヒヤリ・ハッとするなど驚くかどうかは実は関係がない
- 子どもにとって、上記につながる出来事を見落とさないようにすること
- 未熟さにもとづく行動が環境に合わないことでヒヤリハットとして現れる

▶ **咎めるべき“危険な行動”なのか？**

「保育救命」保育者のための安心安全ガイド

Amazonなど好評販売中
遠藤　登著
株）メイトのひろばブックス
（月刊ひろば別冊）
色刷88ページ・両面カラー
ポスターつき。

一般書店で予約
ISBN 978-4-89622-412-2

予約問い合わせ
株式会社メイト
03-5974-1700
書籍コード：61043